科目名			担当教員	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ			竹之内　章代（上）・相場　恵（下）	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CC3095	2	1	RorSR (講義)	2 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

科目の概要

■科目の内容

スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは関係形成の基礎となるコミュニケーション、面接技法を学ぶ。次いでアウトリーチやネットワーク形成に焦点を当てその方法を学ぶ。具体的には、

１）社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。

２）支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。

■到達目標

1）多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について説明できる。

2）支援を必要とする人との援助関係の形成や，ニーズ把握の知識と技術について説明できる。

3）事例研究を通じて、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の専門職として必要な価値や技術、知識について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座［専門科目］6 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規出版、2021 年

（スクーリング時の教科書）上記テキストは必ず持参してください。テキストや配付資料をもとに講義を実施します。

【参考図書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座［専門科目］7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021 年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論や方法について、事例を通じて学ぶことを期待します。また、支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うために必要な知識や技術の確認を各自行えるよう講義の振り返りを行ってほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する①	1援助関係の意義と概念 ・ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係
2	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法を理解する②	2援助関係の形成方法 ・自己覚知と他者理解 ・コミュニケーションとラポール
3	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法を理解する③	3面接技術 ・面接の意義、目的、方法、留意点 ・面接の場面と構造 ・面接の技法
4	ソーシャルワークに関連する技法①	1ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点 2ファシリテーション ・ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点
5	ソーシャルワークに関連する技法②	3プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点 4カンファレンス ・カンファレンスの意義、目的、留意点 ・カンファレンスの運営と展開
6	事例研究①	1事例分析 ・事例分析の意義、目的 2事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点
7	事例研究②	1総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援 2家族支援の実際 ・家族が抱える複合的な生活課題 ・家族支援の目的、方法、留意点
8	まとめ	講義内容に関して修得状況を確認する。
9	スクーリング試験	試験により自己の理解の到達度を確認する。

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

テキストや配付（配信）資料をもとに講義を進めます。

■スクーリング評価基準

事前学習およびスクーリングで学んだ内容から出題します（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

テキストのスクーリングの内容に該当する部分を事前に読んでから講義に臨んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワークにおける援助関係（第２章）	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する １援助関係の意義と概念 ・ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係	人間関係と援助関係の違いを理解し、ソーシャルワークにおける援助関係の重要性を確認してください。クライエントシステム及び実践レベルにおいて援助関係の重要性を確認してください。
2	ソーシャルワークにおける援助関係（第２章）	２援助関係の形成方法 ・自己覚知と他者理解 ・コミュニケーションとラポール	援助関係形成には、信頼関係の構築とそのためのコミュニケーションが大切です。援助関係形成の技法を確認してください。
3	ソーシャルワークにおける援助関係（第２章）	３面接技術 ・面接の意義、目的、方法、留意点 ・面接の場面と構造 ・面接の技法	相談援助において「面接」を中心に援助が展開されていきますが、面接で援助関係を形成するためにはどのような点に留意をすればよいかを考えながら、学びの確認をしてください。
4	ソーシャルワークに関連する技法（第７章）	１ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、交渉の総体として「ネゴシエーション」の技法を学びます。
5	ソーシャルワークに関連する技法（第７章）	２ファシリテーション ・ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、集団や組織に働きかける『ファシリテーション』の技法を学びます。
6	ソーシャルワークに関連する技法（第７章）	３プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、利用者や家族、あるいは団体や自治体への紹介や提案をするときの技法である「プレゼンテーション」について学びます。

7	ソーシャルワークに関連する技法 （第５章）	４カンファレンス ・カンファレンスの意義、目的、留意点 ・カンファレンスの運営と展開	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、他者との協議を行う目的での会議「カンファレンス」の方法を学びます。
8	事例分析・事例検討・事例研究① （第６章）	１事例分析 ・事例分析の意義、目的	事例分析・事例検討・事例研究との関係性を整理します。その上で、事例分析は事例検討と事例研究の一部をなすものとして不可欠なものです。意義や目的を確認してください。
9	事例分析・事例検討・事例研究② （第６章）	２事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点	事例検討は、事例分析で事例への理解を深め、具体的な取り組みについて考えるものです。また、事例研究は事例分析を通じて、課題を明らかにし、理論やモデルの生成や、実践の評価にも役立つものです。それぞれの違いを確認してください。
10	事例研究① （第１章）	１総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
11	事例研究② （第１章）	１総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
12	事例研究③ （第１章）	２家族支援の実際 ・家族が抱える複合的な生活課題 ・家族支援の目的、方法、留意点 ・家族を取り巻く複合的な課題について	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。ここでは、さまざまな家族を取り巻く社会的な課題について理解します。
13	事例研究④ （第１章）	２家族支援の実際・家族が抱える複合的な生活課題・家族支援の目的、方法、留意点 ・家族に関する理論の理解 ・家族理解のためのツール	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。家族に関する理論を整理してみましょう。また、エコマップなどをソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習してみましょう。
14	事例研究⑤ （第１章）	２家族支援の実際・家族が抱える複合的な生活課題・家族支援の目的、方法、留意点 ・事例から学ぶ	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
15	振り返りとまとめ	15 回の学びを通じて自己の学びの深度を確認する	各回のキーワードとなることを抽出し、自分のことばで説明できるかどうか、確認してみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークにおける援助関係の形成において、その基盤となるコミュニケーションや他者理解や自己覚知の重要性についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

ソーシャルワーカーとして社会福祉士が持つべき価値や技術、知識について確認してください。その上で具体的な援助技法を実践において活用するために、理論やモデルの整理をしてみるとよいでしょう。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

テキストの第 2 章を中心に学習してください。また、レポート作成に当たっては、ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）で学んだ理論やモデルなどを確認して作成するとよいでしょう。

科目修了試験

■評価基準

1）出題された課題に対して、ポイントを押さえて論述されているかどうか
2）テキストや参考文献、レポート作成で学んだことが理解され、説明されていること
3）論旨がとおっていること
4）規程の分量を満たしていること